

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年9月12日

氏名 (フリガナ)	鬼木玲奈 (オニキレイナ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2017年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	防衛医科大学校
学年	5年生

短い期間でしたが非常に有意義な時間を過ごすことができました。はじめに研修スケジュールをいただいた時には、朝から夜までみっちりスケジュールが組まれていて、ついていけるのかどうかとても不安でした。しかし、他の参加者と力を合わせながら、楽しく乗り越えることができました。

本研修にはさまざまなプログラムがありましたが、最も印象に残ったのはハワイ大学の医学生との問診練習です。なんといってもハワイの医学生のレベルの高さに驚きました。私は最初、彼らは予め現病歴や家族歴の書かれた紙を渡されて、それに沿って患者役を演じてくれているのかと思っていました。しかし、実際には彼らは疾患名しか伝えられておらず、あとはそれに合わせて私たちの質問に答えてくれていたのです。これはその疾患に関する正確な知識がないとできないことでしょう。しかも、それを1年生や2年生といった自分よりも医学を学んでいる期間の短い人もできていてすごいなと思いました。また、問診の練習中にハワイの医学生から「アメリカでは家に体重計がない人が多いから、最近、体重が減ったのかどうかを聞くのではなく、最近、服がゆるくなったのかどうかを聞く。」といったアメリカならではのことも教えてもらえました。患者さんへの聞き方でも日本とアメリカの違いを知ることができて勉強になりました。さらに、もう1つ驚いたのが、毎日、プログラムの最後に、日本人参加者だけで先に行う症例検討会で扱った疾患をハワイの医学生も答えられるのかどうかを聞く時間があったのですが、そもそも鑑別疾患として挙げられる数が多いこと、そして、誰かしら必ず正解を言えることです。日本人だけでは誰も答えられなかったものをハワイの医学生があっさり当ててくれることもあって、力の差を感じました。

それから、ハワイの医学生との問診後、先生方にケースプレゼンテーションをする時間もありましたが、マンツーマンでご指導いただけただけで大変貴重な経験となりました。ただ単に問診した内容を伝えるだけではなく、そこからどんな鑑別診断が考えられるのか、診断を絞るためにどんな検査をオーダーするのかといった内容まで伝える必要がありました。本学の病院実習ではこのレベルまで求められることはなかなかないので、非常にいいトレーニングになりました。さらに、ケースプレゼンテーションの構成は適切か、情報に漏れはないかといったこともアドバイスいただけました。そのため、回数を重ねるごとに上手くできるようになりましたし、自信もつきました。今回、学んだ内容は日本語のケースプレゼンテーションにも応用できると思うので、是非活かしたいです。

このプログラムに参加してもう1つよかったのが、さまざまな人と出会えたことです。ハワイの医学生はもちろんのこと、日本からの参加者も英語力、医学の知識ともにレベルが高くてよい刺激を受けました。それから、帰国子女や再受験といったさまざまなバックグラウンドの人と交流できてよかったです。特に、本学は2浪生までしか受験できないため、他大学の再受験の人と話ができて、世界が広がりました。また、参加者はほとんどが5年生だったのですが、同じ学年とは思えないくらい、医学知識についてもいろんなことを知っていて、勉強に対するモチベーションが上がりました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった日米医学医療交流財団の方をはじめ、ハワイ・トーカイ・インターナショナル・カレッジの方、現地でご指導いただいた先生方、そして、ハワイ大学の医学生など、研修中にお世話になった方々に感謝の意を表して、研修報告書を終わりたいと思います。本当にありがとうございました。